

※著作権取得済み 承認番号 (22-2145)

障がい者、楽しく働く区画農園

雇用進めたい企業、派遣 関西すでに3カ所

子どものころ、プチトマトやカイワシ大根などを栽培した経験がありますか？ 収穫できてうれしく、食べてくれた人が「おいしい」と言ってくれた時、うれしさは倍増しました。そんな気持ちを大切にしたい農園があり、知的障がいや精神障がいがある方が働いていると聞きました。私、記者生活36年。障がい者雇用の現場を見てきました。が……、なるほど、この手があったか。



摂津市にある「わーくはびねず農園」は、3階建ての建物。白い光と緑の野菜につつまれた屋内農園で、20ほどの区画に分かれて障がい者が働いている。区画ごとに掲げられている会社名が違った。

「近鉄エンジニアリング」(本社・大阪市)の区画では、3人が苗を容器に入れる作業をしていた。岸東澄さん(29)は、この春まで派遣で事務の仕事をしてきた。「子どものときプチトマトをつく



「わーくはびねず農園」で働く3人。いすも摂津市

右から岸東澄さん、田上佳子さん、南部泰巳さん
「おいしい野菜の作り方を もっと覚えて」と3人
左は農場長の野中元子さん



近鉄エンジニアリング社長の武内弘光さん

新しい取り組みを
農場長を含めた4人は近鉄エンジニアリングの社員だ。同社は、1964年の創業。国

勤務は朝8時半から午後3時半。どんな野菜をつくっているかは、棚を見れば、わかる。小松菜などの絵がはってあるのだ。この屋内農園は地震に強い設計。落下してケガをしないように、高所作業セロ。空調が利いているし、施設中に抗菌、抗ウイルス対策がなされている。

内外の工場の生産ラインなどを設計している。大阪市に本社、福岡県大牟田市に支社、従業員2000人ほどの会社だ。

昨年5月に副社長から社長になった武内弘光さん(63)は、この数年、考えていた。

法律で決められている障がい者の雇用率は、従業員の2・3%。それをクリアするため、設計ができる身体に障がいがある人を雇ってきた。

「障がい者を、何か新しい取り組みで雇おう」
雇用の現実を調べてショックだった。知的障がいや精神障がいがある人は、賃金が低い作業所などで働くか、働く場所がなく困っているのだ。

「うちの農園では、知的、精神の障がい者が楽しく働けます」
この会社は2010年、東京に誕生した。安い賃金だったりで働く場所がなかったりする障がい者に、やりがいと誇りが持てる環境

をつくる、が事業だ。
その環境づくりが、「わーくはびねず農園」だ。エフ社は、農園の運営と作業支援をする。実際に農作業をする障がい者は、雇用を進めたいと考える企業の社員。最低賃金以上の給料を稼げる。

苗から野菜になるのは分かりやすい。収穫した野菜を社員に配ると、「おいしい」「ありがと」と言ってくれる。
エフ社は関東、東海地方であわせて30カ所、農園を運営していた。21年、関西に初めてきたのが、摂津市の農園だった。これまでに枚方市と大阪市にも開業。年内には大東市にもできる予定だ。エフ社が全国に展開する農園を約500社が利用し、働いている障がい者は、2700人を超える。

近鉄エンジニアリングに話を戻しましょう。
農園でとれた野菜は、本社や福岡支社の社員たちに無償で配られています。社員たちからお礼の声が届き、農園の3人はニッコリ。
この夏にも、コロナ禍でできなかった農園の3人による社員への直接販売を開きます。売り上げは子ども食堂などに寄付する予定。武内社長は言います。
「障がい者雇用をこの広げられないか、考えています。人間の本分を果たすためです」
(編集委員・中島隆)

社員に野菜で笑顔

全国約500社が利用